

特集

隣にある危機

～災害へ、個人で地域で備える～



山口県航空防災センター撮影

平成17年9月6日から7日にかけて、岩国市に大型台風14号が襲来しました。山口県内では台風接近に伴って、台風の北側に停滞する秋雨前線の活動が活発化し、県内全域で激しい雨が降り出しました。県中部と東部を中心に、台風が接近する22時ごろまで激しい雨が降り、1時間あたりの最大降水量は、6日18時に岩国で47ミリを観測しました（岩国の9月分の月間降水量平均値は約190ミリ）。

被害地域は台風から見て東側にあたり、台風本体を流す風と中心に吹き込む温かく湿った風による影響で、雨雲が発生しやすい状況でした。台風14号の速度も遅く、活発な雨雲が長時間にわたり上空にかかり続けた結果、記録的な豪雨となり、岩国市では山陽自動車道が崩落して住民が3人死亡したほか、御庄・藤河・横山など広範囲が冠水。また市町村合併前の美川町や錦町でも住宅の半壊や土砂崩れなど、各地で甚大な被害をもたらした。その復旧には多くの時間と費用を費やすこととなりました。皆さん、災害に対する日ごろの備えはできていますか。今回の特集では、災害の被害を抑えるために、個人でも、そして地域でもできる防災について紹介します。

自然の猛威

目次

02 特集 隣にある危機

- 10 健康スポーツ
フェスタ 2013
- 12 市有地を購入しませんか
- 14 9月10日は下水道の日
- 15 ミクロ生物館
- 16 健康教室・食推さんの食べてみんさいおいしいけえ
- 17 救急医療を守るために
- 18 市政 PICK-UP
- 20 すまいる
- 21 まちの話題
- 24 くらしの情報
- 28 おでかけ情報
- 32 みんなの写真館・市長夢日記

表紙の写真



危険を感じたら 早めの避難を (今津町第三街区公園)

9月1日は「防災の日」です。市役所や消防機関をはじめ、広く国民が台風や高潮、津波、地震などの災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する日です。

【撮影協力】麻里布小学校児童

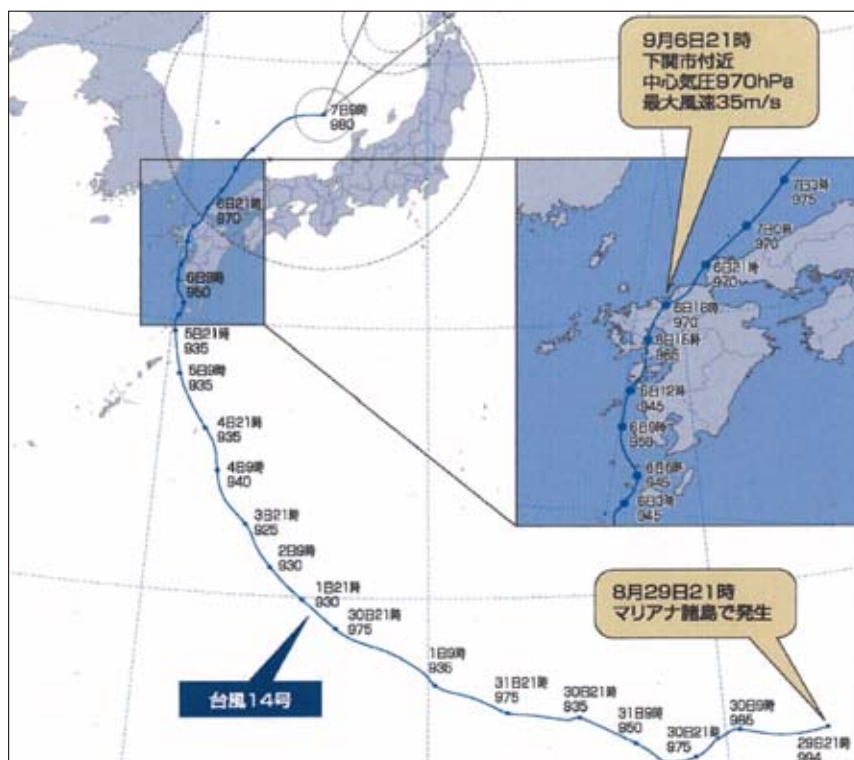
平成17年台風14号による岩国市(旧本郷村・周東町・錦町・美川町含む)の被害概要

人的被害 死亡3人、重症1人、軽症2人

住家被害 全壊6棟、半壊326棟、
床上浸水731棟、床下浸水678棟

避難勧告 指示1,320世帯、勧告18,107世帯

開設避難所数 110カ所、5,020人(避難者数)



大切な自助・共助・公助

災害に強い街づくりのために

災害が発生すると、交通や通信などに障害が発生し、消防など行政による十分な救援活動を受けられない可能性があります。災害による被害を最小限に抑えるためには、自分で自身や家族を守る「自助」、地域の皆さんが協力して防災活動を行う「共助」、行政による情報提供や支援物資の提供などを行う「公助」の連携が重要です。

『自助』

自分で自身や家族を守ること

- ①防災情報収集
- ②防災用品の準備・点検
- ③避難場所・経路の確認
- ④家族間での連絡方法の確認

『共助』

地域で協力して災害から守ること

- ①自主防災組織の強化
- ②地域の防災点検や確認
- ③要援護避難者(災害弱者)への配慮
- ④人材・物資・用具の把握

『公助』

行政が住民を災害から守ること

- ①自主防災組織などの結成・育成支援
- ②防災研修会、防災訓練の実施
- ③公的な緊急体制の整備、生活支援など

「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持って「自主防災組織」を作り、組織的な地域防災活動に積極的に取り組みましょう。

防災情報の入手

危険を回避し、身を守るために

台風や集中豪雨は、ある程度、進路や時期・規模を予測することが出来ます。災害から身を守る（自助）ため、普段から気象情報や安全対策を確認し、災害時に備えておきましょう。

事前にチェック！

災害が発生したときには、速やかに避難できるように、近くの避難所などを各自で確認しておきましょう。また、完全に避難できる避難経路も確認しておきましょう。

各地域の避難所など詳しくは、市ホームページの「岩国市の防災」で確認できます。



▲岩国市の防災

※避難所の敷地入り口付近には、看板を設置し、建物入り口ドアにステッカーを貼付しています。あらかじめ避難所の位置を確認しておいてください。



岩国市防災メール

避難情報や自然災害情報をメールでお知らせするサービスです（市外に住んでいる人も登録可能）。※メールは無料で利用できますが、通信費用は利用者負担となります。

●避難情報など配信サービス
市発表の避難勧告などの緊急情報や防災訓練などの一般情報が受信できます。

●自然災害情報の配信サービス
気象庁発表の気象情報（注意報・警報）、地震、津波、台風、火山情報がメールで受信できます。

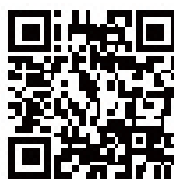
※携帯電話かパソコンから左記のアドレスにアクセスすると申し込み手続き画面へ進みます。メールアドレスを登録後、希望する配信設定を行ってください。

ホームページアドレス
<http://www.fastalarm.jp/iwakuni/htdocs/>



▲岩国市防災メール申し込み手続き画面

登録・配信設定がうまくいかない場合、危機管理課にメールアドレスを連絡してください。職員が代行登録します。
☎危機管理課 ☎295119
※携帯電話では左記のQRコードを読み取ることもアクセスできます。



▲携帯電話用QRコード

山口県防災情報メール

観測データの基準値超過や注意報・警報の発令情報、防災関連イベントなどをメールでお知らせします。
※メールは無料で利用できますが、通信費用は利用者負担となります。

●配信項目

気象の注意報・警報、津波情報、洪水情報、土砂災害警戒情報、雨量、河川水位、ダムに関する情報、お知らせなど

申込のアドレスに空メールを

送信してください。登録用フォームのアドレスが記載された返信メールが届きますので、そのアドレスにアクセスし、必要事項を入力して、登録ボタンを押してください。
✉ regist@suibou.pref.yamaguchi.jp
☎山口県土木建築部河川課
083-933-3776

山口県土木防災情報システム

山口県土木防災情報システムは、インターネットや携帯電話を通じて、県内の雨量情報・水位情報・ダム情報・土砂災害情報・気象情報などの防災情報を県民にリアルタイムで配信するシステムです。パソコンか携帯電話で、次のアドレスから見る事ができます。

パソコン版
<http://y-bousai.pref.yamaguchi.jp/>
携帯電話版
<http://y-bousai.pref.yamaguchi.jp/k/>

山口県土砂災害

ポータル

●土砂災害警戒情報の発表

大雨警報発表後に土砂災害の恐れがあるときに、山口県と下関地方気象台が共同で発表する防災情報です。

山口県土木防災情報システムにアクセスし「土砂災害ポータル」を選択しても利用できます。

ホームページアドレス

<http://d-keikai.pref.yamaguchi.jp/portal/>

ダムの情報

●テレフォンサービス

電話で、水位・流入量・放流量などを知ることができます。

○菅野ダム

☎083-486-2301

○生見川ダム ☎0546

●インターネット

弥栄ダムでは、放流に関する通知をメールで受信できるサービスを行っています。

ホームページアドレス

<http://yasakadam.go.jp/contents/index.htm>

災害時協力井戸の募集

大規模な災害時に、被災者へ生活用水を提供できる井戸を募集します（飲料水供給が目的ではありません）。

●登録要件

○ポンプ（電動式または手動式）など井戸水をくみ上げるための設備があり、安全に取水できること。○現在、井戸として使用していて、今後も引き続き使用を予定していること。○市内にある井戸であること。

※詳しくは問い合わせてください。

図危機管理課 ☎5119

防災の日

「防災の日」は、大正12年9月1日に発生した関東大震災を教訓に国民一人一人が自然災害について認識を深め、災害に対する備えを充実するため、昭和35年に定められた記念日です。また「防災の日」を挟む8月30日～9月5日は「防災週間」となっています。

非常時持ち出し品の紹介

災害が発生すると、水、電気、ガス、通信などのライフラインが停止する可能性があります。避難が必要になったとき『必要なもの』『なければ困るもの』などを考えて、事前に準備しておきましょう！



貴重品など

現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証、クレジットカードなどを準備しておきましょう。



医薬品など

キズ薬、ばんそうこう、包帯、マスクや風邪薬などを用意し、常備薬も忘れず携行しましょう。



非常食・水など

カンパンや備蓄用パン、缶詰など、火を通さずに食べられるものと水を準備しましょう。



防寒・雨よけなど

非常用ブランケット（アルミシート）やブルーシートなど、保温や防寒対策もしておきましょう。



懐中電灯・ラジオなど

懐中電灯は一人一つ、ラジオは薄型が便利です。予備用に電池も一緒に準備しましょう。



その他

ヘルメット、軍手、ポケットティッシュ、ウエットティッシュ、笛などがあると便利です。



共助 地域で備える

自分たちの地域は自分たちで守る

共助とは、災害の被害を最小限に抑えるため、隣近所の人たちが日常的に協力して災害対策に取り組む事や、万一災害の被害にあった場合に、行政の支援が始まるまでに、地域で取り組む至急の救助・救援（自主防災活動）などが含まれます。

共助の必要性！

台風や地震など災害発生時、市や消防、警察などの公的な防災関係機関は、全力で災害対応を行います。災害の規模によっては道路・電気・ガス・水道などのライフラインの寸断や、被害の大きな現場の対応のため、発生直後の活動は著しく制限されます。



▲水没した交差点

実際、阪神淡路大震災の被災地では、家屋の倒壊による生き埋めや建物に閉じ込めら

重要な役割を担う 自主防災組織

● 自主防災組織

自主防災組織とは、地域の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識・連帯感のもと、自主的に結成する組織であり、災害時に初期消火や避難誘導、被災者の救助、炊き出しなどの防災活動を行い、災害の被害を最小限に抑えるための組織です。

● 日常からできる活動

災害時に効果的な活動ができるよう、訓練、備蓄などの災害への必要な備えを行うことや、地域住民が防災に関する正しい知識を共有し、自主防災訓練へ積極的に参加していくことが重要です。

● 防災知識を高めるには

地域の行事やイベントの中で防災を意識付ける機会を設けることや、消防機関・危機管理課へ防災講習などを依頼するなど、地域ぐるみで防災意識の普及・啓発に取り組んでいく必要があります。

● 自主防災訓練（藤生駅前自治会）

「本番のように訓練し、災害に備える」

6月9日、藤生駅前自治会では、緊急時の連絡網を更新したことを受けて「防災炊き出し訓練」を行いました。

当日は小雨にもかかわらず、小さな子どもから高齢者まで約80人が参加し「地震により津波警報が発表された」という想定で訓練が行われました。

課題

- 今回の訓練で、地域の人びとで助けあう共助の大切さなどが、あらためて確認できたようですが、課題も出てきたそうです。
- 新連絡網の周知徹底
- 要援護避難者への対応を班の問題から自治会全体の問題へ変更
- 回覧方法の見直し

訓練内容

- ① 新連絡網による伝達避難通報訓練
- ② 防災本部の設置（テント設置など）
- ③ 避難者の人員把握
- ④ 要援護避難者（自身での避難が難しい人）のチェックおよび誘導
- ⑤ 炊き出し訓練（うどん・にぎり飯）
- ⑥ 危機管理課による防災講習
- ⑦ 親睦会（食事会）



現場の人に聞く

～地域の人を守るには共助の心がなにより大事～

藤生駅前自治会の自主防災訓練は、今年で3回目。そこで活動されている人たちにお話を伺いました。



藤生駅前自治会
会長 山下智基さん

近くの人が近くの人を助ける
共助を実行するには「絆」が大事

「東日本大震災を契機に、地震など災害が起ったときには、地域で助け合って少しでもみんなが避難できる体制を作っていかなければいけない」こう話されるのは、藤生駅前自治会会長を6年間務められている山下さんです。

山下さんは、地域の自主防災力を高めるためには、地域の人びとの「絆」を強くすることが大事だと考え、地域の運動会やお正月の食事会などで、役員で参加者(約1000人)分の食事を用意し、みんなの笑顔を見ながら食事をし、地域の絆を深めていくという取り組みをされています。また6月の防災訓練では、足が悪いなどの要援護避難者をどうやって避難させるかなど、いくつかの課題が見つかり、今後の総会で対応を協議し、地域で助け合ってみんなで助かるよう、対策を行う予定だそうです。

「自分が率先して自主防災活動に取り組み、土台を作り、それが形になったとき、次の人に引き継ぎ、地域に防災の輪を広げていきたい」と話していました。

日ごろからのコミュニケーションが大切

蛭子さんは、自治会では副会長を、訓練では炊き出しの責任者を務められています。「災害が発生したときに、急に共助といっても行動ができない。日ごろからのコミュニケーションが大切です」と話す蛭子さんは、自治会でみんなが集まるイベントを企画し、そこで自治会員がお互い顔を見



▲蛭子義人さん

合わせてコミュニケーションを取っていけるよう心掛けていくそうです。「防災訓練も回数を重ねることに効率があり、各自が役割を自覚してきました」と話してくれました。

避難するために連絡網の充実を図る

「6月9日の訓練は、避難するために適した班割りに修正した後、初めて行われた防災訓練でした。そのため以前の連絡網を使っている家庭もあり、緊急連絡が全ての家庭まで行き渡りませんでした」と自治会で総務を担当している藤中さんは振り返ります。「避難するときには、一



▲藤中満昭さん

人ではなく、班でまとまって避難することが大事。そのためには、自治会員相互に連絡を取れるよう、連絡網に携帯番号を入れるなど充実を図ることがなにより重要」とのことです。



行政の取り組み

市民の命を守るために

市では、平成17年の台風14号を教訓に、市民の皆さんが少しでも安心して生活できるよう、危機管理課の設置を始め、さまざまな取り組みを行っています。

●危機管理課を設置

これにより、平常時から災害の予防対策が行え、また以前まで総務課で対応していた災害時の情報収集や分析、避難指示などが、状況に応じて適宜行えるようになりました。

●特別警報の運用開始(行政やマスコミを通して発表)

気象庁が、警報の発表基準をはるかに超える現象(東日本大震災など)に対して「特別警報」を8月30日から新たに発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。その際は、屋外の状態や避難指示・勧告などに留意し、直ちに命を守るための行動を取ってください。

●地区対策班の設置

災害応急対策課(道路課、



▲昨年の鵜飼サミットの様子

河川課などを除く職員が各地区を担当し、迅速な災害情報の収集、避難所の運営にあたります。

●自治体間災害時相互応援協定の締結

鵜飼サミット関連自治体6市(岩国市、山梨県笛吹市、茨城県日立市、岐阜県岐阜市、関市、愛知県犬山市)で、災害時における相互応援に関する支援協定を結んでいます。

●防災行政無線の整備

防災行政無線は、災害の発生前から災害直後、そして復旧に至るまで安定的に情報伝達できる手段として、重要な役割を担っています。

●防災メールの運用

防災メールの運用を開始し、気象情報や避難勧告などの情報を携帯電話に配信しています。また緊急速報メール・エリアメールによる情報伝達も可能となりました。

●災害対応型自動販売機の設置

一部の避難所に、災害時に飲料が無料提供される自動販売機(市からのメッセージ表示機能付)を27台設置しています。

●民間企業などとの防災協定の締結

災害時に不足しがちな食糧・飲料水・日用品などに非常備蓄だけでなく、流通在庫も活用するために民間企業などと協定を結び、円滑な供給を図っています。

住民と行政が一体となり防災訓練を実施

毎年「防災の日」である9

月1日に近い日曜に「山口県総合防災訓練」が行われています。昨年は8月26日、初めて岩国市と和木町を会場に総勢121機関、約1、400人が参加し開催されました。

訓練では、岩国・和木周辺を震源とした地震と南海トラフ地震に伴う津波を想定。住民が近くの小・中学校などに避難して炊き出し訓練や給水訓練を行い、岩国港では海上自衛隊の救難飛行艇と掃海ヘリコプター、岩国海上保安署などの行政機関が出勤して海上での救出・救助訓練などが行われ、住民・行政相互の協働防災意識を高めました。



大切なのは

できることから始める



危機管理専門員
吉山隆二

岩国市は、昔から大きな災害被害に遭うケースが少なかったのですが、災害は自分たちと関係のないことだと思っている人がまだまだ多いと、市内各地を防災講演で回りながら感じました。

だからこそ自分が講演で自治会や学校などを回り、住民一人一人に防災意識を持つてもらい、それが地域の自主防災活動へと繋がっていったらいいと思っています。

皆さん、寝室にタンスはありますか？ あれば転倒防止対策(突っ張り棒など)を何かしていますか？ まずは家の中の安全を確保するために、できることから始めてみてください。

どこに逃げるの？

もう一度、最寄りの避難所を個人で、家族で、そして地域の人びとと確認しておきましょう！

地域	避難所	電話番号
岩国	ホテルかんこう	④31111
	岩国小学校	④10447
	中央公民館	④30174
	岩国工業高校体育館	④11105
	岩国中学校	④34400
	顕真幼稚園	④10738
	岩国自動車学校	④10987
	サンライフ岩国	④3505
	教育センター	④30901
	岩国高校体育館	④31141
平田	総合体育館	③27411
	平田小学校	③17312
	平田供用会館・住民ホール	③12514
	岩国商業高校体育館	③14133
	平田中学校	③21111
麻里布	老人福祉センター	③14355
	中央消防署	②20119
	白崎八幡宮	②91122
	市民会館	②41221
	麻里布小学校	②17111
室の木	N T T 岩国電話交換所	③05190
	福祉会館	②25877
	麻里布保育園	②28208
	麻里布中学校	②2234
	保健センター	②43751
東	医師会病院	②13211
	東中学校	②20108
	東小学校	②12611
	こども館にっこり	②40888
	日本製紙体育館	②46222
装港	帝人岩国事業所体育館	②46500
	一文字終末処理場	②44501
	装港小学校	②15052
	装港供用会館	②36032
	専念寺本堂・川下幼稚園	②10725
川下	万行寺本堂・保育園	②25215
	川下供用会館	②30641
	漁業協同組合	②23238
	川下中学校	②15168
	川下小学校	②21533
愛宕	法寿寺本堂・法寿幼稚園	②13881
	旭会館	②2067
	愛宕小学校	③17020
	高水高校体育館	③17191
	なんわ荘	③40100
	地方卸売市場	③27355
	愛宕供用会館	③26130

地域	避難所	電話番号
灘	中央図書館	③10046
	灘小学校	③17233
	灘供用会館	③18707
	灘中学校	③20211
	岩国総合高校体育館	③16155
	中洋小学校	③80338
柱島	柱島供用会館	④82001
小瀬	小瀬供用会館	⑤23312
	小瀬小学校	⑤22813
藤河	すばる・あすか	④32727
	ティエラ	④43003
	藤河公民館	④10037
	いしい記念病院	④10114
	藤河小学校	④10774
御庄	デリカウィング	④34411
	御庄公民館	④60001
	御庄小学校	④60016
	ベルコ東山口	④50444
	杭名小学校	④73044
北河内	桜の園	④73100
	北河内公民館	④73001
	天尾小学校(休校)	④73215
	南河内公民館	④72001
	河内小学校	④72005
南河内	岩国西中学校	④72009
	師木野公民館	④61001
	柱野小学校	④61006
師木	つづの里	③91021
	通津公民館	③81001
	通津小学校	③81011
通津	由宇文化会館	③60121
	由宇文化スポーツセンター	③61400
	由宇中学校	③60950
	由宇小学校	③60410
	由宇老人福祉センター	③60675
由宇	由西小学校	③60920
	神東小学校	③62269
	神東婦人の家・神東農家研修センター	③60770
玖珂	玖珂東部コミュニティセンター	⑧22511
	玖珂野口コミュニティセンター	⑧22511
	玖珂総合公園管理棟	⑧10350
	玖珂柳井田コミュニティセンター	⑧22511
	玖珂大田コミュニティセンター	⑧22511
	玖珂総合センター	⑧25445
	玖珂小学校	⑧22039
	玖珂中央小学校	⑧23504

地域	避難所	電話番号
玖珂	玖珂こどもの館	⑧25446
	玖珂中学校	⑧22054
	高森高校体育館	⑧23234
	玖珂北部コミュニティセンター	⑧22511
本郷	本郷公民館	⑦52056
	本郷保健センター	⑦52350
	山村留学センター・山村センター	⑦52721
	波野小学校	⑦52443
周東	周東川越健康増進センター	⑧60116
	周東川越公民館	⑧60116
	周北小学校	⑧60212
	修成小学校	⑧40614
	周東米川公民館	⑧40002
	川上小学校	⑧40507
	周東中央公民館	⑧47709
	高森小学校	⑧40014
	周東体育センター・周東勤労青少年ホーム	⑧41400
	周東南総合センター	⑧40213
	祖生西小学校	⑧50207
	そお保育園	⑧50046
	周東祖生公民館	⑧50001
	祖生東小学校	⑧50210
錦	周東中田公民館	⑧42622
	錦ふるさとセンター	⑦22215
	広東小学校(休校)	⑦22303
	府谷集会所	⑦22110
	錦大野集会所	⑦22110
美川	錦グリーンパレス	⑦30211
	深須小学校(休校)	⑦30115
	高根21世紀センター	⑦40001
	宇佐小学校(休校)	⑦40525
	美川コミュニティセンター	⑦60211
美和	美川基幹集落センター	⑦70001
	美川林業センター	⑦70211
	みかわ保育園	⑦60014
	美川小・中学校	⑦70202
	ハーモニーマいわ	⑨50005
	美和農林業者トレーニングセンター	⑨61111
	美和西部ふれあいセンター	⑨61111
	美和東小学校	⑨50100
	美和東部コミュニティセンター	⑨61111
	美和老人福祉センター	⑨60600
	美和西小学校	⑨50111
	美和阿賀ふれあいセンター	⑨70010
	北門ふるさと交流館	⑨61111

特集後記

隣にある危機

「備えあれば憂いなし」このことわざのように、災害に遭わないためには、普段から情報収集の方法や、自分の家から最寄りの避難所へ行く方法、また家族が学校や勤務先など別々の場所で被災した場合には、どうやって連絡を取り、どこに集合するかなどが考え・話し合い、備えることが重要です。

また自分たちの安全が確保できれば、次は隣近所の人たちが避難できているかなど、地域の人にしか分からないような「地域の力(共助)」を発揮することが重要となります。そうすることで、被害を最小限に抑えることに繋がっていきます。

自然災害は決して自分の住む地域と無関係ではありません。いつ起こってもおかしくない「隣にある危機」として認識し、それに対して「自助」「共助」「公助」が連携することで「隣にある危機」は「隣にある安心」へ変えていけるのではないのでしょうか。